

ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル（横浜市西区）の従業員が異文化などについて教える授業が、神奈川大学（同市神奈川区）で行われている。世界各国からの宿泊客に対応する現場スタッフの生の声を聞く

ことで、外国語学部の学生を「真の国際人」に育て上げるのが狙い。一線で活躍する社会人の話に、学生たちも刺激を受けているようだ。（岡本 晶子）

"先生"はホテル従業員

神大とインターコンチ



朝倉さん（右）のアドバイスを参考に、ホテル30周年記念プランを考える学生たち＝6月25日、神奈川大学

グローバル人材育成へ連携

「2021年に迎えるホテル30周年の記念プランを考えてみよう」

6月25日。教壇に立った同ホテル人事部研修担当支配人の朝倉ゆり恵さんが、50人ほどの学生に課題を与えた。

宿泊、レストラン、宴会など部門は問わない。ただし、ビジネスとして成功する見込みがあるかも考え、必ず全員が発言し、3回の講義でプランをまとめて発表するよう指示。グループに分かれた学生たちは、会員制交流サイト（S

NS）を活用した企画など意見を出し合った。

同ホテルが立地するみなとみらい21（MM21）地区に、同大が21年に新キャンパスを開校予定との縁もある2者は18年4月、グローバル人材の育成などを目的に協定を締結。外国語学部での授業はそれに基づく取り組みの第1弾で、同ホテルが人材やノウハウなどを提供する「寄付講座」と位置付けた。4月から7月までの全14回を予定し、本城明総支配人を含め、各部門の部門長らがリレー形式で請け負う。

ホテルやサービス業界に関心がある外国語学部3年の廣澤光紀さん（20）は「普段、社会人から直接話を聞く機会がないので、貴重な経験。ぼんやりと思っていた将来の夢に近づけた」と話した。兼子良夫学長は「理論を超えた実践を学ぶのが目的。新たな時代に対応する国際的な感性やコミュニケーション能力を養い、真の国際人を育成したい」と意気込んでいる。